

◆ 今週のコメント

- マラリア(熱帯熱)の報告が1例(男性, 20歳代)あります。本年初めての報告です。推定感染地域は国外(ケニア)で, 推定感染経路は蚊からの感染です。過去5年間では, 平成21年 なし, 平成22年 5例, 平成23年 1例, 平成24年 2例, 平成25年 1例の報告があります。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(男性, 40歳代)あります。症状は下痢で, 推定感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は2例となっています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(男性, 10歳未満)あります。症状は発熱, 大泉門膨隆, 髄膜炎, 菌血症です。本年の累積報告数は4例となっています。平成25年4月1日に五類感染症(全数把握感染症)に追加されて以降, 平成25年の累積報告数は15例でした。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.37(15例)で, 年末年始を含む平成26年第1週を除き, 平成25年第43週(10月21日～10月27日)以降, 過去5年平均値を大きく上回る状態が続いています。今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は36.94(2, 512例)で, 前週 24.21(1, 646例)に比べ約1.5倍となり, 警報レベルの「30」を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 四類: マラリア(熱帯熱) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 2例(第2週追加分含む)【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類: 侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	36.94	2512
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.66	273
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	41
	③ 水痘	0.59	24
	④ 咽頭結膜熱	0.37	15
	⑤ 突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

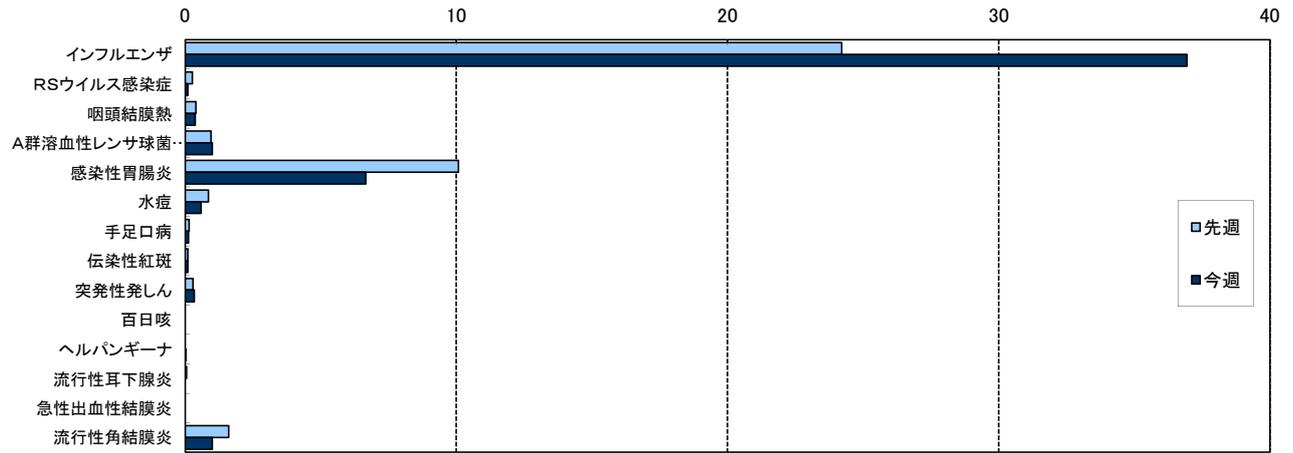
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

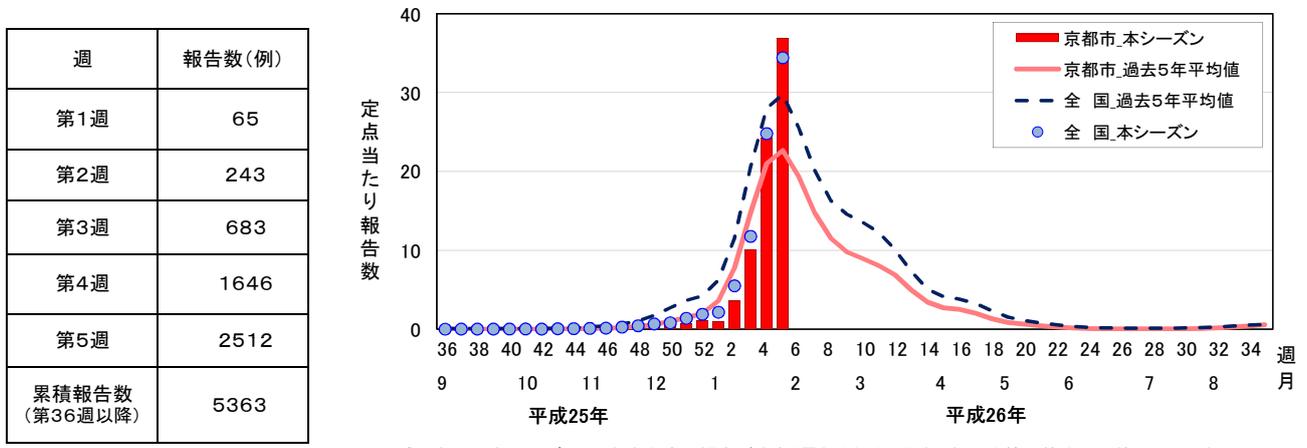
(注) 京都市のデータは, 平成26年2月6日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第5週)と先週(第4週)の定点当たり報告数の比較

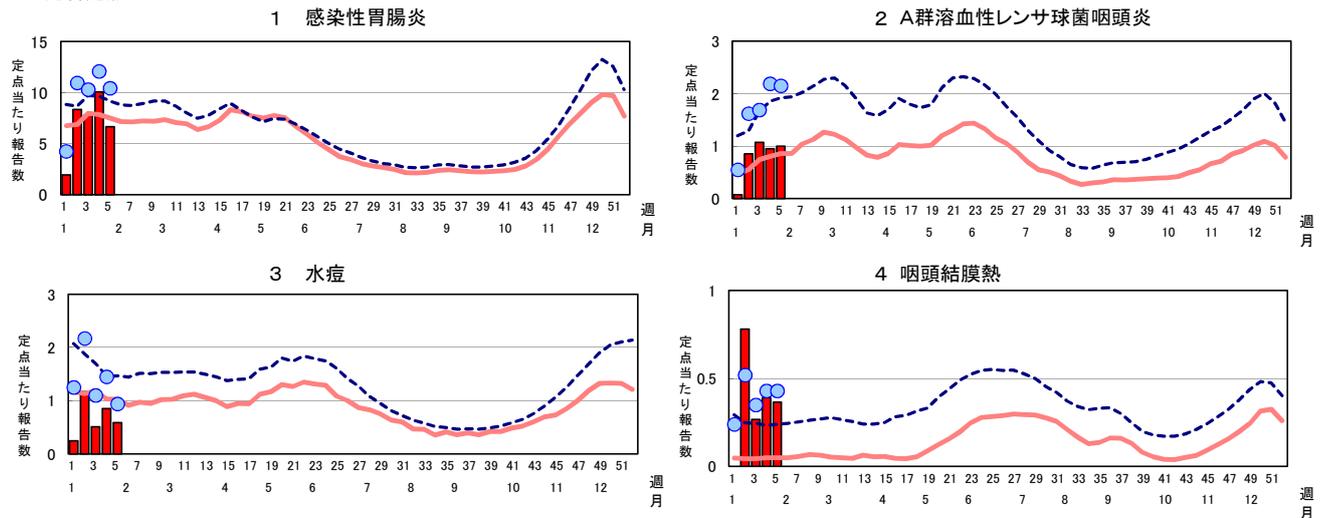


2 インフルエンザの推移

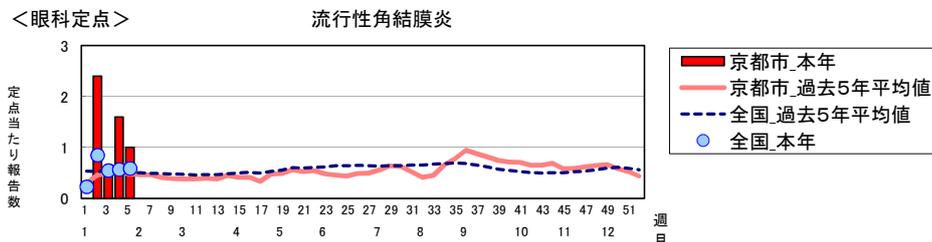


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第5週(1月27日～2月2日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は36.94(2,512例)で、前週 24.21(1,646例)に比べ約1.5倍となり、警報レベルの「30」を上回っています。定点当たり報告数が「30」を超えたのは、平成23年/24年シーズン及び平成24年/25年シーズンに引き続き、3年連続となっています。

都道府県別では、和歌山県及び高知県を除く45都道府県で前週より増加しており、24都府県で定点当たり報告数が警報レベルの「30」を上回っています。近畿6府県では、4府県(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県)で定点当たり報告数が「30」を上回っています。

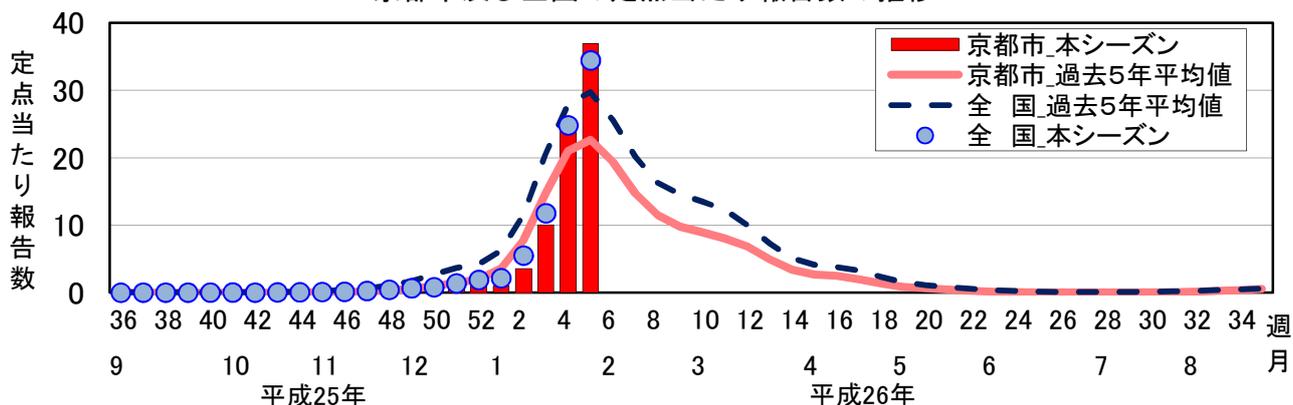
全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告数は、A(H1)pdm09 615例、A(H3)型 560例、B型 379例となっています。(平成26年2月6日現在)

また、国立感染症研究所と全国の地方衛生研究所が共同で、インフルエンザウイルスの抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランスを実施しています。詳細は、下記ホームページをご覧ください。

○国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ「インフルエンザウイルス分離・検出速報」

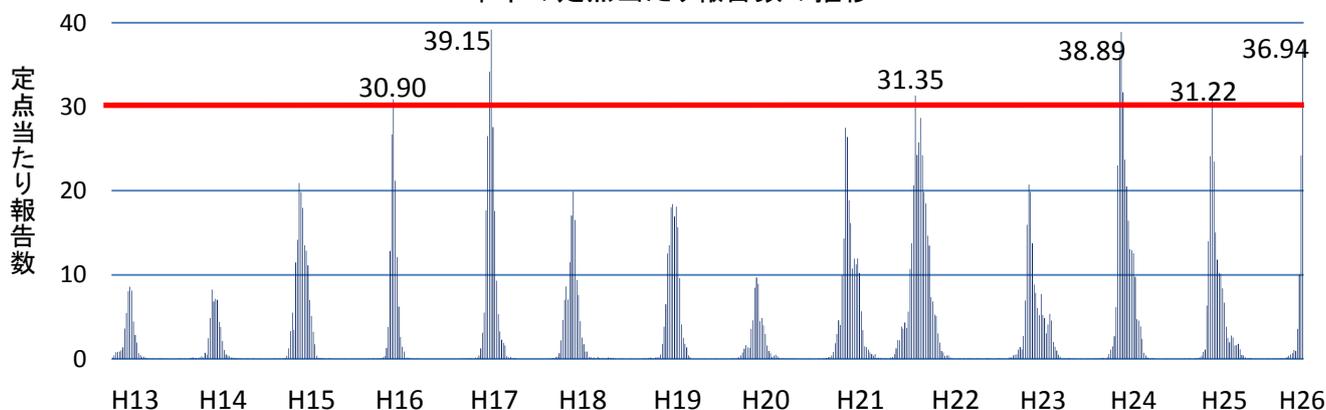
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

本市の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

